朝日新聞　11.7.23

石巻市職員８０人「強いストレス症状」

東北大調査　東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市の職員約１４５０人のうち８０人以上に、不眠や無気力感など強いストレス症状が見られることが、市と東北大の調査でわかった。東北大は「予想より多い」とし、市は医師によるカウンセリングなどを進める方針だ。

石巻市と東北大は６月から今月上旬にかけて職員の健康調査を実施した。その結果、「気が晴れない」「自分に価値がない」などと感じたり、不眠を訴えたりするなど、専門家によるカウンセリングなど心のケアが必要と見られる職員が８０人以上にのぼったという。調査に協力した臨床心理士の若島孔文・東北大准教授は「思っていたより多かった。症状が重ければ命にもかかわる」と警告する。

市によると、妻子や自宅を一度に失い、精神科医のカウンセリングを受けている職員もいるという。人事担当者は「ケアが必要な人をどう見つけ、どう手だてしていくか、長期的に考える必要がある」と話した。

死者・行方不明者が４千人を超える石巻市は被災自治体のなかで、被害が最も大きかった。市職員も６割が自宅や家族を失うなど被災したが、震災直後から復旧、復興への対応に追われている。（福島慎吾）